

肥料価格高騰対策(春肥)のごあんない

～肥料価格高騰に直面する農家の皆様を支援します～

肥料価格の高騰による農業経営への影響緩和のため、化学肥料の低減に向けて取り組む農業者の皆様の肥料費を支援します。



支援の対象となる肥料

令和4年11月から令和5年5月に購入した肥料(春肥として使用する肥料)※ が対象です。

(※)肥料法に基づく肥料が対象。秋肥は令和4年6月から10月。

支援の内容

化学肥料低減の取組を行った上で前年度から増加した肥料費について、その**8.5割(国:7割、県1.5割)**を支援金として交付します。

支援金 =

当年の肥料費

－

当年の肥料費 ÷ 価格上昇率 ÷ 使用量低減率

1.4

0.9

× 0.85

※春肥は今後公表予定(秋肥においては1.4)

申請に必要なもの

次の2つがあれば申請できます。

- 1 春肥(令和4年11月～令和5年5月に注文の購入価格がわかるもの(注文票、など))

注文票のほか、領収書または請求書、市町村から支援金を受領している場合は、それを示す書類も必要です。

- 2 化学肥料低減に向けた取組に**2つ以上**取り組むこと

(次のページのチェックシートで申告していただきます。)

次のページを参照



農業者の皆様にご記入いただくもの



化学肥料低減計画書

作付概要

作物名	作付面積 (ha)
〇〇〇	
〇〇〇	
その他	
計	

「令和4年度又は令和5年度の取組」欄のうち、
取り組めるものに〇を記入してください。

- 2つ以上に〇が付けばOKです。
- これまで既に取り組んでいるものもカウントできます(その場合、1つ以上は、新しい取組または従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。)

問

- 実施する(してきた)取組メニューに「〇」を付してください。
- 「令和4年度又は令和5年度の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。



取組メニュー	前年度までの取組	令和4年度又は令和5年度の取組
ア 土壌診断による施肥設計	○	○
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用	○	◎
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用		
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等も含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア〜スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用()		

私は、添付した領収書(請求書)等記載の肥料(肥料費)について以下のとおり、確約します。

令和4年秋肥又は令和5年春肥として確実に購入し、自らの農業生産に使用します。

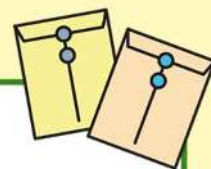
※チェック欄にチェックした上で署名してください。

氏名(自署)

(注) 当年の肥料費は、秋用肥料については令和4年6月~10月、春用肥料については令和4年11月~令和5年5月(県支援事業については令和4年11月から令和5年2月末)に発注したことを証明する書類と、参加農業者が肥料費を支払ったことを証明する書類(領収書等)または支払い義務が生じていることを示す書類(請求書等)、市町村から支援金を受領している場合はそれを示す書類)を提出すること。
なお、肥料の種類、数量、購入費が記載されているものに限る。

申請方法

営農経済センターへ申請ください。



スケジュール

スケジュールは、概ね以下のとおりです。

～4年11月下旬

申請者から取組実施者への申請(秋肥分)

4年12月中下旬～

申請者への支援金の交付(秋肥分)

～5年6月30日

申請者から取組実施者への申請(春肥分)

5年8月中旬～

申請者への支援金の交付(春肥分)

Q&A

問 い



① 化学肥料が足りなくなるということを聞いたのですが。

答 え



- ・ 肥料メーカーや輸入事業者の皆様のご努力により **当面必要な肥料原料は確保**されています。
- ・ 今後も、調達状況を注視して、肥料の安定供給に取り組んでまいります。



問 い



答 え

<p>② 化学肥料の使用量を実際に2割減らすことが支援の要件ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 化学肥料の2割低減に向けて、取組メニューのうち2つ以上行っていたら支援対象となります。・ 選択された取組について、適切にフォローしていきます。
<p>③ 既に化学肥料の低減に取り組んでいるため、更に低減することは難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 既に取り組んでいるものもカウントします。・ その際は、既に行っている取組の拡大や改善で良いので、新たな取組みを1つ以上行ってください。
<p>④ 低減に向けた取組をしたいが、準備が必要なのですぐには行えない。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 本年に取り組めない場合は、来年に取り組んでいただければ結構です。・ 国内資源の利用など体制整備に時間を要する取組は、期間内に取り組んでいただければ結構です。
<p>⑤ いつ頃までに申請すれば良いですか。また、いつ頃支援を受けられますか。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 基本的に秋肥、春肥でそれぞれまとめて申請してください。・ 秋肥について、早めに申請いただければ、できるだけ年内に支払えるようにします。
<p>⑥ 領収書の提出が間に合わない場合はどうすれば良いですか。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 領収書が間に合わない場合は、請求書を提出いただければ、支援金をお支払いすることができます。・ 肥料を購入した農協や販売店に御相談ください。



農林水産省ホームページにおいて、本パンフレットの解説動画を掲載しておりますので、是非ご覧ください！

肥料価格高騰対策事業



神奈川県燃油・肥料高騰対策協議会
(JA神奈川県中央会 農業くらし対策部内)

TEL:045-680-3005 FAX:045-680-3029

手続きについてはJAさがみ営農経済センターへ問い合わせください。
春肥申請は6月30日(金)まで受付。